

令和5年度 横浜氷取沢高等学校国際交流（#せかい部「世界の教室とつながろうプロジェクト」を利用したアメリカの高校生とのオンライン交流）の取組

1. 「#せかい部」の取組への参加経緯

本校は文科省の国際交流プロジェクト「#せかい部」の加盟校であり、折に触れて留学生の講演会や異文化体験などの情報提供を行っている。これまでのところ、情報提供のみにとどまっており、そのような機会をとらえて国際交流を目的として活動に参加している生徒は増えていない。本プロジェクトの募集要項にあったアメリカの高校の中に、ボランティア活動に精力的に取り組んでいる学校があることに着目し、今回の機会を有効活用し、本校ボランティア部員が、言語学習だけでなく、ボランティア活動という共通の話題を通して生徒の国際理解が深まることを期待し、プログラムに応募した。

2. 交流相手校

- ・エルセリー高校（アメリカ カリフォルニア州）

Key Club:<https://eckiwis.wixsite.com/eckc/>

当日は、エルセリー高校以外でKey Club（アメリカの高校生が学校を超えて所属しているリーダーシップ養成のためのクラブ）に所属している高校生も参加した。アメリカ側は合計で5名が参加した。

3. 交流日

令和6年3月18日（月）11:00～12:00

4. 交流内容

本校のボランティア部は50名を超える生徒が所属しており、いくつかの班に分かれて活動をしている。その中で、国際交流に興味を持っている生徒たちを募り、国際交流班として今回のプロジェクトに参加した。参加した生徒は1, 2学年の生徒計6名である。

交流日の前月に、本プロジェクトを企画運営しているWTOCのスタッフと相談し、交流内容を決めた。今回の交流に参加を希望しているアメリカ人の生徒が、本校のボランティア部の取り組みに興味を持っているということもあり、ボランティア部の活動を紹介するスライドを作成し、英語での紹介をする準備を進めた。また、日本の学校システムになじみがない高校生が多いということだったので、本校がどのような高校か紹介するスライドも同時に準備した。今回参加した生徒の中には、本校のニュージーランドオンライン交流に参加している生徒もいたが、全員がアメリカ人の高校生と話すのは初めてという状況だったので、事前にリハーサルを複数回行ってからオンライン交流に臨んだ。

以下は当日の交流の流れである。お互いの学校紹介から始めて、参加生徒一人ひとりの自己紹介、お互いのクラブ活動に関するプレゼンテーションを行い、Zoomの機能を使って、オンライン上で1対1で話す機会を作った。最後に日米双方の代表生徒が交流を通して学んだことを中心にまとめの話をした。

○交流の流れ

0～5(分)	学校紹介
5～10	自己紹介
10～20	互いのクラブ活動に関するプレゼンテーション
20～50	ブレイクアウトルームを利用した個別交流（1対1）
50～55	互いの代表生徒によるまとめ
55～60	教員からのフィードバック

5. 参加した生徒の感想

生徒A

1対1のとき、英語でコミュニケーションを取るのが難しかったけど、なんとか会話することができ、難しいことでも挑戦することは大切なことだと思いました。さらに、相手の生活を知ること、アメリカの生活文化なども知り、視野を広げることに繋がったのではないかと考えました。

生徒B

1対1で話すタイミングで、お互いの好きなものについてたくさん話せて良かった！
いろんな話をする中で分からない単語や文をつくれずに困ったりもしたけど、ジェスチャーや知っている単語で伝えようと頑張り、相手も理解してくれたのが嬉しかった。



6. 今後の取り組み

今回は1回限りの取り組みだったが、「#せかい部」の取り組みの中には、留学経験者による体験談を聞く座談会や、英語圏以外の国の文化にまつわるワークショップなど、多岐にわたる取り組みが行われている。引き続き「#せかい部」の様々な活動に関する情報を生徒へと伝え、生徒が国際交流の機会をとらえて主体的に参加する場を提供していきたい。